

<実習内容 被服製作>

1 基礎縫い

(1) 普通まつり

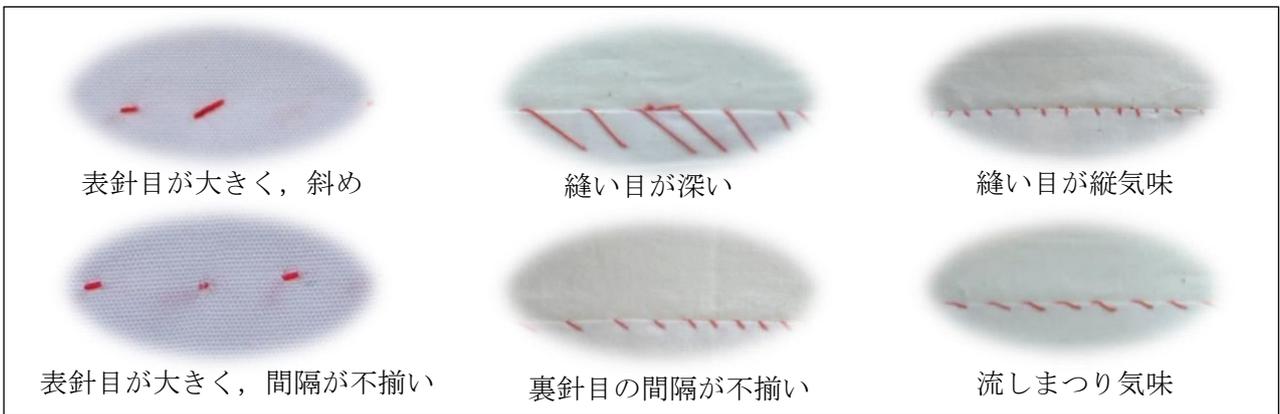
普通まつりは、裾、袖口などに使用し、表側には 0.1cm 程度の針目、裏側には斜めの針目が出る縫い方（資料 1）である。裏側の縫い目が「ハ」の字になっているのが美しい普通まつりとされている。指導においては、生徒の作品に多く見られる失敗例（資料 2）の実物見本もあるとより理解が深まる。

また、よく使用する 3 種類のまつり縫い（資料 3）それぞれの縫い方の特徴を理解させることで、生徒が用途に合わせた縫い方を習得することができる。

【資料 1 普通まつりの例】 ☆ポイント☆ 縫い目が「ハ」の字になるようにすくう



【資料 2 普通まつりの失敗例】



【資料 3 3種類のまつり縫いの特徴と用途】

	普通まつり	たてまつり	流しまつり
縫い目			
特徴	布を動かすことが可能で、さまざまな用途に使用可能	しっかりと布を固定し、摩擦面が少ない	布を動かすことがより可能で、表に当たりが出にくい
ポイント	・縫い目が「ハ」の字	・縫い目が「ト」の字 ・縫い目が動かない	・縫い目が「へ」の字 ・縫い目が左右に動くよう、緩めに縫う
用途	・スカート、パンツの裾 ・袖口	・スカートのウエスト始末 ・裏付き袖の袖口 ・ジャケットの裏袖縫い代始末	・ジャケットの裏地の裾 ・スカートの裾

(2) 半返し縫い

ミシン糸と手縫い糸で仕上がりを比較すると、ミシン糸を使用した方が繊細で、美しい仕上がりとなる。手縫い糸は、丈夫に縫う場合に適する。また、表側の縫い目が緩みやすいため、指導する上で事前に留意させると失敗が少ない（資料4）。

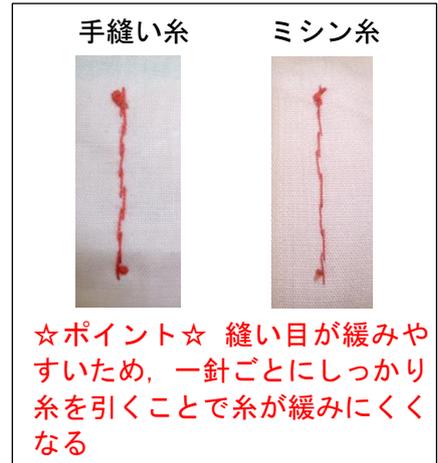
(3) 検定実施後に施す巾着のデコレーション

被服製作技術検定4級実施後に装飾を施すことで、一つの作品として完成させることができる（資料5）。これにより、「生活文化」「服飾手芸」等の他科目と関連付けながら、製作することができる。また、事前に計画を立てることで、生徒の能力に合わせて進めることができる（資料6）。

【資料5 デコレーション例】



【資料4 半返し縫いの糸別比較】



【資料6 デコレーション計画プリント】

まち付き巾着のデコレーション

「自分の好きな音楽」「好きな絵本」「世界遺産」など、何かテーマを一つ決め、その世界観を表現してみよう。」

手順

- 1 テーマを決める。
- 2 デザインを考える（裏面・裏面）。
- 3 デザインに合わせて材料や技法を選び、考えながら制作をする。
装飾については市販のレース、ボタンなどの材料を購入してもよい。また、家にある布、古い衣類や小物を使用してもよい。
- 4 図案通りのミシン目はデザインにうまく活用するか、装飾で隠してもよい。

提出期限・・・ 月 日 まで

表現した作品

使用した材料

工夫した点

デザイン画

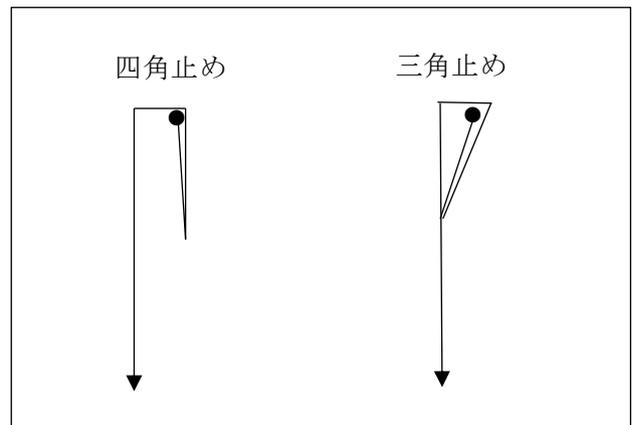
2 アウターパンツ

(1) ポケットの口止めミシン

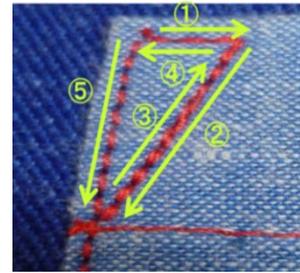
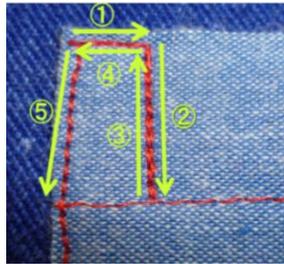
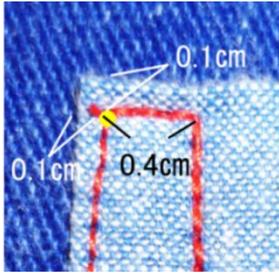
【資料7 一般的なポケットの口止めミシンの縫い方】

一般的な縫い方（教科書や参考資料等による縫い方）の手順は、資料7のように●の位置から始め、矢印の方向に縫う。しかし、生徒にとっては、最初に針を刺す位置（●）が分かりづらく、角が揃わないなどの不都合が出る。

そこで、最初に針を刺す位置を変えて縫う方法（資料8）を考えた。最初に針を刺す位置を分かりやすくすることにより、仕上がりも美しい上に、丈夫な縫い方になる。



【資料8 最初の針を刺す位置を分かりやすい場所に変えて縫う方法】



☆ポイント☆ 最初に針を刺す位置を変えることで、左右の口止めミシンの大きさを、きれいに揃えることができる

(2) 縫い方の手順

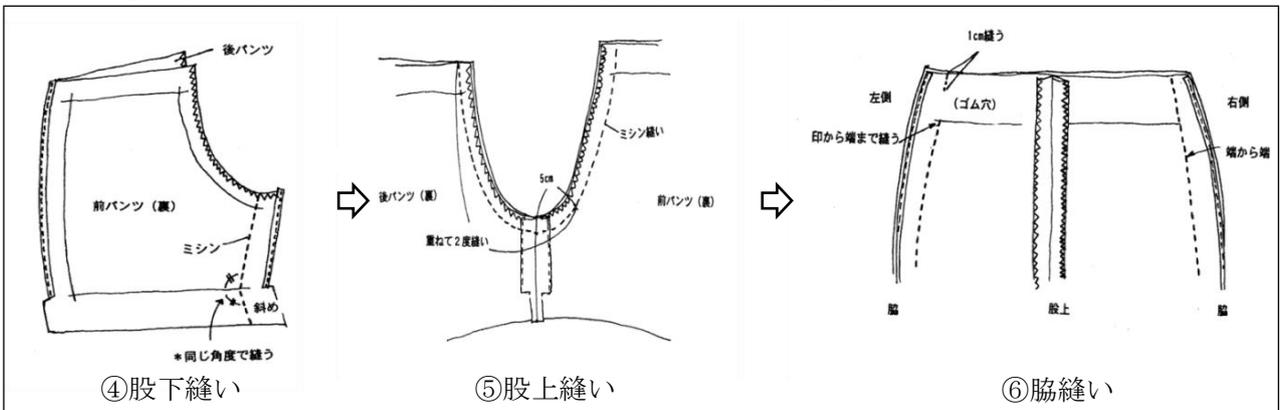
一般的な縫い方（教科書や参考資料等による縫い方）である資料9の手順1は、筒状にしてから股上を縫う。この手順は、パンツの構成については理解しやすい。しかし、股上を縫う際の布の合わせ方が立体的で縫いにくい。資料9の手順2は、股上縫いを平らな状態で縫うことができるというメリットがある（資料10）。しかし、脇を縫う際に間違えやすいというデメリットもある。

【資料9 アウターパンツの縫い方の手順の比較】

- 手順1
- ①裁断
 - ↓
 - ②印つけ
 - ↓
 - ③ポケットつけ
 - ↓
 - ④脇縫い・股下縫い
 - ↓
 - ⑤股上縫い
 - ↓
 - ⑥裾縫い・ウエスト縫い
 - ↓
 - ⑦ゴム通し・仕上げ

- 手順2
- ①裁断
 - ↓
 - ②印つけ
 - ↓
 - ③ポケットつけ
 - ↓
 - ④股下縫い
 - ↓
 - ⑤股上縫い
 - ↓
 - ⑥脇縫い
 - ↓
 - ⑦裾縫い・ウエスト縫い
 - ↓
 - ⑧ゴム通し・仕上げ

【資料10 資料9の手順2の④、⑤、⑥の縫い方の説明】

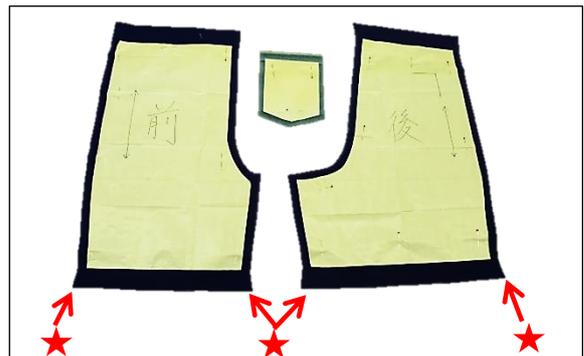


(3) 裾の裁断方法（狭まった裾、広がった裾）

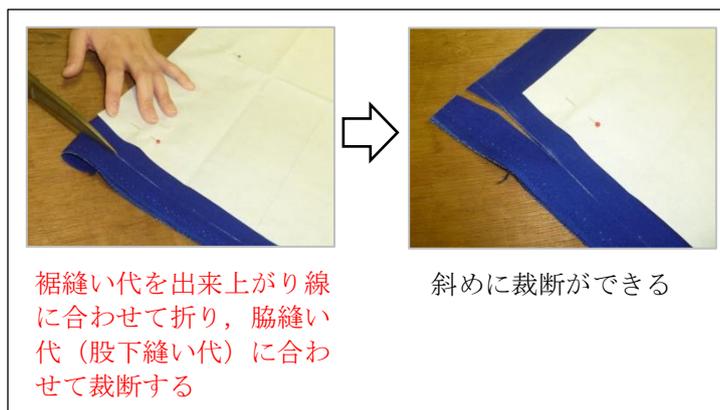
アウターパンツなど、裾が狭まった（広がった）パンツの裾の縫い代等は、資料11の★のように斜めになっている。裁断する際の注意として、裾縫い代を出来上り線に合わせて折り、脇・股下縫い代に合わせて裁断する（資料12）。

この裁断方法は、袖ぐりと脇の縫い代の部分や、えりぐりと肩の縫い代においても応用することができる（資料13）。

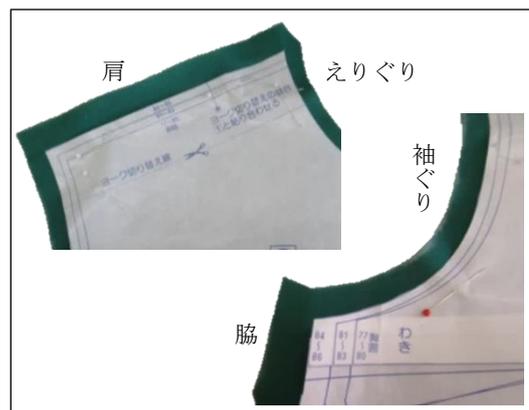
【資料11 裾が狭まったパンツの裾の裁断例】



【資料 12 裾が広がったパンツの縫い代の裁断方法】



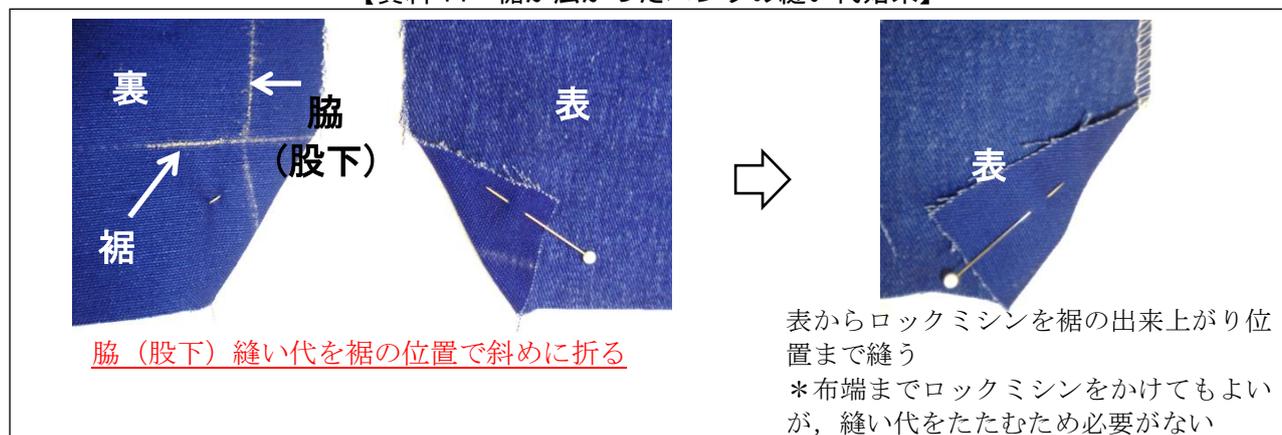
【資料 13 その他の裁断例】



(4) 縫い代始末

裾の縫い代始末は、最終的に折り上げるため、ロックミシンなどで始末する必要がない。そのため、脇や股下の縫い代を裾の位置で斜めに折り，表からロックミシンを裾の出来上がり位置まで縫う方法がある（資料 14）。

【資料 14 裾が広がったパンツの縫い代始末】



(5) ウエストゴム

ウエストのゴムは幅 1 cm 程度のゴムを 2 本通す場合が多いが、手間と時間がかかるという難点がある。学校によっては、幅 2 cm の平ゴムを 1 本通す方法を採用している場合もある。この方法は、手間と時間をかけず、安定して通すことができる。ただし、幅 2 cm の平ゴムを使用させる際は、ねじれた状態で完成させる間違いが生じやすいため、注意が必要である。

3 シャツブラウス

(1) えり作り

被服製作技術検定 2 級(洋服)のシャツの型紙のように、表えりと裏えりの大きさに差がある型紙を使用する方法と、同寸のえりの型紙を使用する方法の 2 種類を研究比較した（資料 16）。えり作りは、表えりに対し裏えりが控えてあることがポイントであり（資料 15），生徒の実態に合わせて製作方法を検討することが必要である。また、最近の教科書や参考書等は、表えりと裏えりの縫い代寸法の差をつけて作り上げる方法を採用している。しかし、この方法は、生徒たちが縫い代を正確に取ることができないため、きれいなえり作りが難しいことが分かった。

【資料 15 控えられたえり】



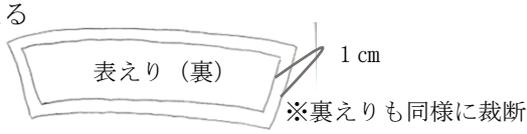
【資料 16 2種類のえり作りのメリット・デメリット】

	方法1	方法2
	表えりと裏えりの大きさに差がある型紙を使用	表えりと裏えりの大きさが同寸の型紙を使用 (資料 17)
メリット	・出来上がり線を合わせるだけでよいため 製作方法を理解しやすい	・えりの構造を理解しやすい ・他の洋服作りに応用が利く
デメリット	・えりの構造を理解しにくい ・応用が利かない	・表えりと裏えりの差をつけてまち針を打つことが難しい

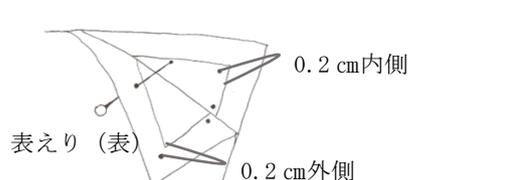
【資料 17 資料 16の方法2による2種類のえり作り (裁断～ミシン縫いまで)】

A 表えり・裏えりの縫いしろ寸法が同寸の場合

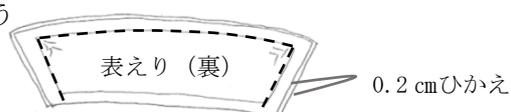
① 裏えり・表えりの縫いしろを 1 cmに切りそえる



② 表えりは出来上がり線より 0.2 cm外側, 裏えりは, 0.2 cm内側にまち針を止める



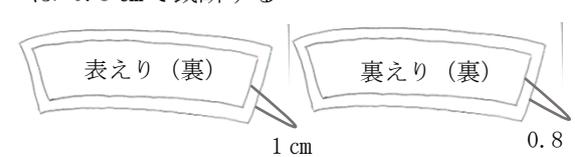
③ まち針のひと針目にしつけをしてミシンで縫う



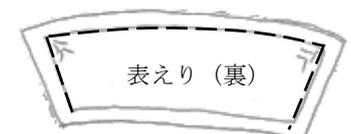
☆ポイント☆ まち針の打ち方
①角 → ②中心 → ③更に中心, の順でまち針を打つことで, 表えりと裏えりの大きさの差を均等に入れることができる

B 表えり・裏えりの縫いしろ寸法に差がある場合

① 表えりの縫いしろは 1 cm, 裏えりの縫いしろは 0.8 cmで裁断する



② 裁ち端をそろえてまち針を打ち, 表えりの印とおりにしつけをする



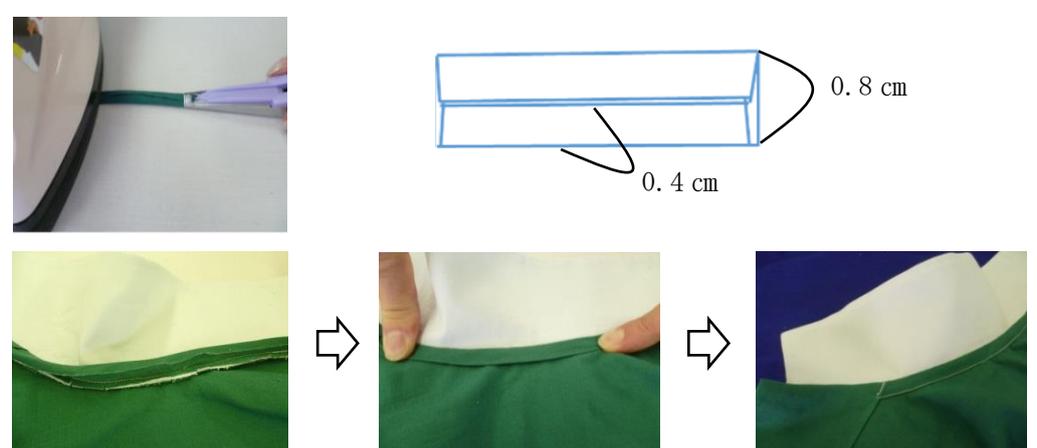
③ 印より 0.2 cm縫いしろ側にミシンをかける



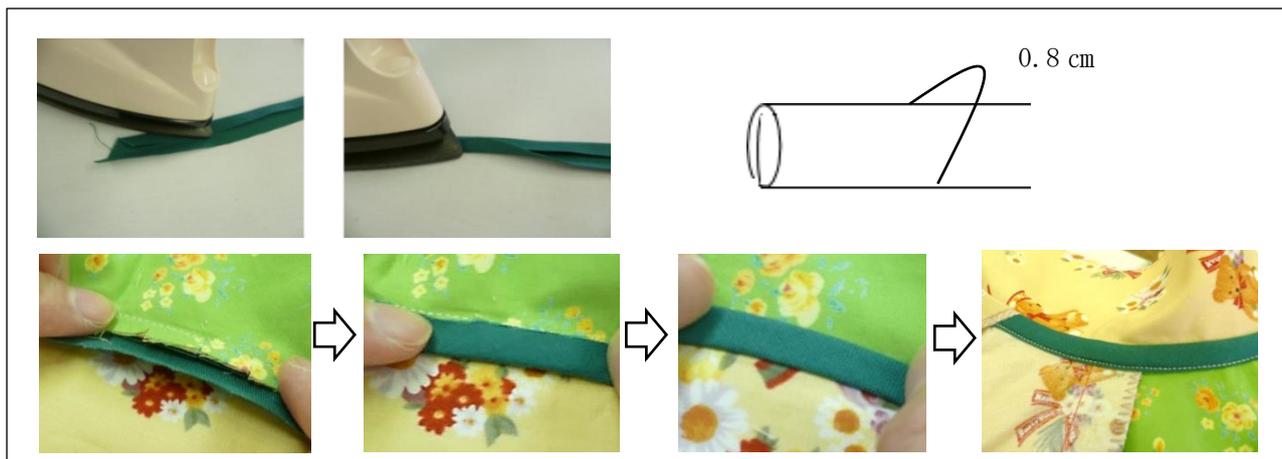
(2) えりつけ

3種類のえりつけ方法 (資料 18, 19, 20) を実践し, それぞれのメリットとデメリット (資料 21) を明らかにすることで, 生徒が理解しやすい方法を検討した。

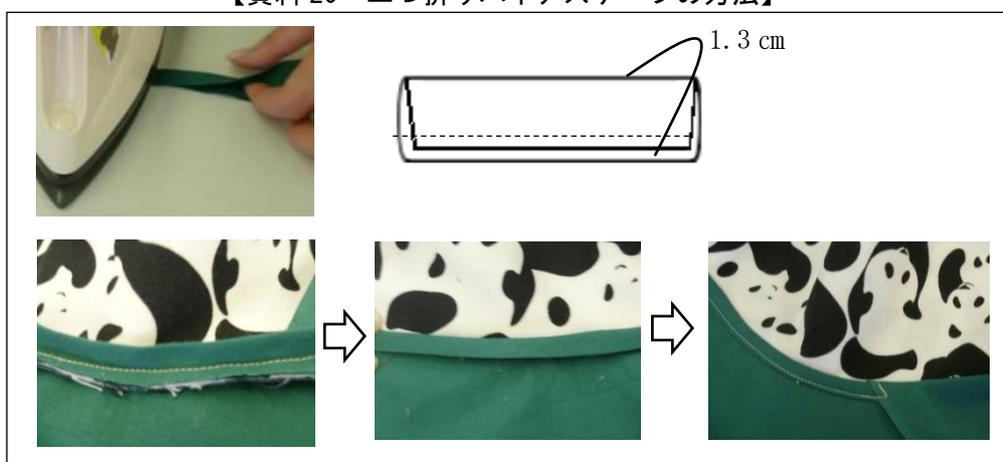
【資料 18 両折りバイアステープの方法】



【資料 19 三つ折りバイアステープの方法】



【資料 20 二つ折りバイアステープの方法】



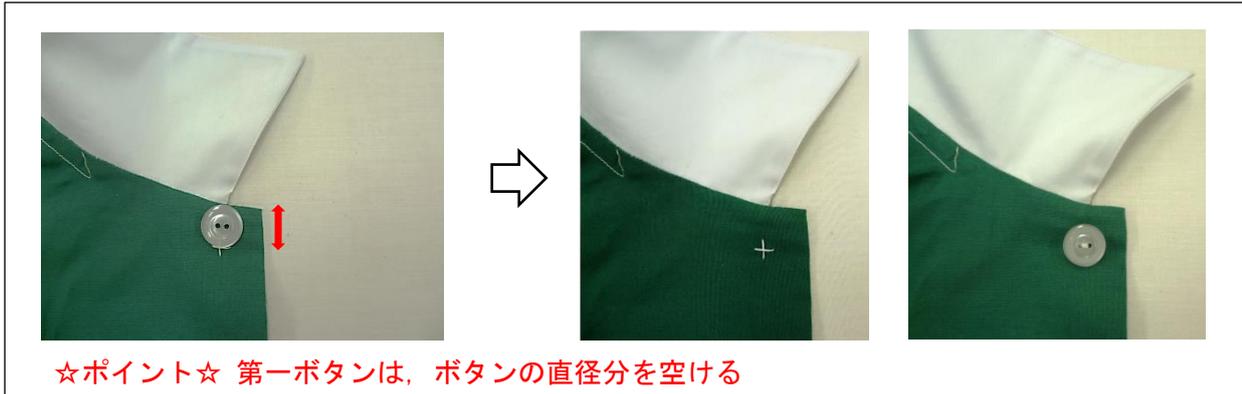
【資料 21 3種類のえりつけ方法のメリット・デメリット】 ☆ポイント☆ さまざまな方法の特徴を知る

方法	両折りバイアステープ *テープメーカー使用	三つ折りバイアステープ	二つ折りバイアステープ
メリット	<ul style="list-style-type: none"> • 本来のつけ方を教えることができる • テープメーカーを使用すると幅の揃ったバイアステープを作ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> • 縫い代の幅が確保され、縫いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> • バイアステープを簡単に作ることができる • 方法1のデメリットである縫い代が出ない
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> • 縫い代が細く、縫いにくい • 押さえミシン位置が深いと折り込んだ縫い代(裁ち目)が出る可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> • 本来のつけ方を教えることができない • 厚い生地には、不向きである 	<ul style="list-style-type: none"> • 本来のつけ方を教えることができない • 包まないため、えりつけ縫い代が出てくる可能性がある • 厚い生地には、不向きである

(3) 第一ボタンの位置

ボタンの大小にかかわらず、型紙に示してある位置に第一ボタンをつけてしまう可能性がある。しかし、ボタン位置はボタンの直径に関係するため、使用するボタンの直径分を空けた位置につけることを確認した(資料 22)。

【資料 22 第一ボタンの位置】



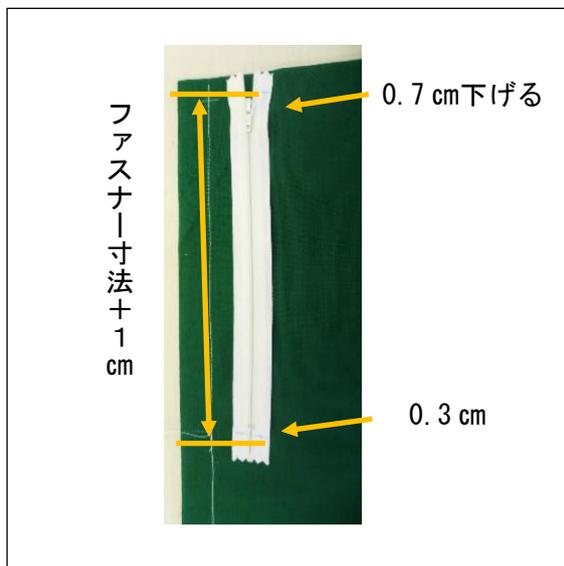
4 ファスナーつけ

(1) フラットファスナーつけ

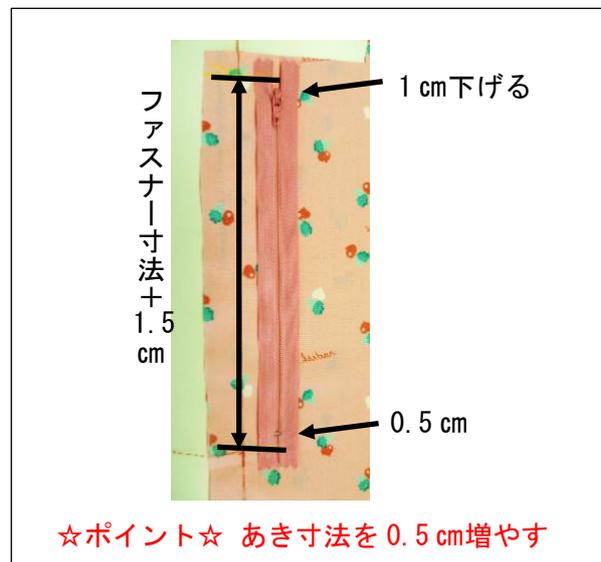
一般的な縫い方（教科書や参考書資料等による縫い方）には、ファスナーのあき寸法は、ファスナー寸法+1 cmで縫うことが多い（資料 23）。しかし、初めてファスナーつけをする生徒にとってウエストから 0.7 cm下がり、あき止まりから 0.3 cm上がった位置にファスナーをつけることは容易なことではない。

そこで、ファスナー寸法+1.5 cmにすると、ウエストから 1 cm下がる位置からつけることができる（資料 24）。その結果、初めてファスナーつけを行う生徒でも、ものさしの目盛り間違いも防ぎながら、容易につけることが可能になる。また、ファスナーつけを指導する際は段階的に点検を行うことが大切である。

【資料 23 ファスナー寸法+1 cm】



【資料 24 ファスナー寸法+1.5 cm】



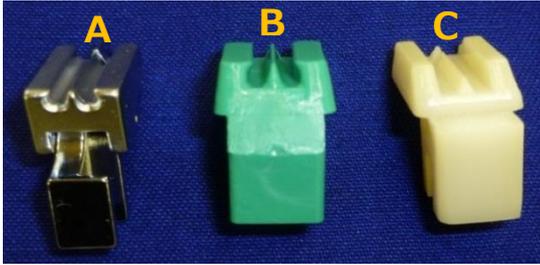
(2) コンシールファスナーつけ

押さえの種類により、溝に違いがあるため、その深さに注意が必要である（資料 25）。

また、資料 25 の A と B の押さえは務歯のきわを縫うことができ、務歯をかむこともなく容易につけることができた。C の押さえは溝が浅く務歯のきわを縫うことが難しく、務歯をかんでしまうことがあった（資料 26）。プラスチック製は、老朽により溝が浅くなることも考えられるため、定期的に点検を行う必要がある。

☆ポイント☆ ファスナー押さえの特徴を知る、務歯をめくりすぎずに縫う

【資料 25 3種類の押さえ】



【資料 26 務歯をかむ】



(3) パンツのファスナーつけ

パンツにファスナーをつける方法としては、主に2とおりがあある（資料 27）。それぞれの方法にメリットとデメリットがあり、生徒の実態に応じて指導方法を選ぶとよい。

【資料 27 パンツのファスナーつけ方法の比較】

方法	前あき部分を開けたまま縫う (一般的な縫い方)	前あき部分を閉じて縫う (フラットファスナーと同様の縫い方)
手順	① 持ち出しを作る ② 右前パンツに見返しをつける ③ 前股上を縫う ④ 持ち出しにファスナーをつけ、左前パンツに縫いつける ⑤ 見返しとファスナー台布を縫いつける ⑥ ステッチミシンをかける	① あきどまりまで粗ミシンをかける ② 以下の手順については、前あき部分を開けたまま縫う方法と同様
メリット	・パンツの構成（ファスナーつけの構造）が理解しやすい	・下前のミシン縫い目が見えない
デメリット	・下前のミシン縫い目が見える可能性がある	・最初から最後まで前あきを閉じて縫うため、印が分かりにくく、ファスナーつけの構造が理解しにくい

5 スカートの型紙展開

(1) ギャザースカート

ギャザー分量の違いによる広がり状態を比較した（資料 28, 29, 30）。生徒の好みや生地や厚さや風合い、布幅などを考慮し、適した分量で指導することができる。とよい。

【資料 28 ギャザー分量×1.5倍 型紙：資料①】



【資料 29 ギャザー分量×2倍 型紙：資料②】



【資料 30 ヨークつきギャザースカート 型紙：資料③, ④】



(2) フレアスカート

スカートのダーツをうまく利用することで上手にフレアを出すことができる（資料 31, 32）。また、布の素材によってフレアの広がりきれいに出来ない場合もあるため、布地選定や材料に適した裁断方法などアドバイスが必要である。生徒の好みに合わせて裾の広がりを変えることで印象を変えることができる。

【資料 31 ダーツを利用した展開

型紙：資料⑤, ⑥】



【資料 32 フレア分量を多くした展開

型紙：資料⑦, ⑧】



(3) ボックスプリーツスカート

ボックスプリーツスカートでは、プリーツの部分に別布を使用することでよりデザイン性の高いプリーツができる（資料 33）。

【資料 33 ボックスプリーツスカートの展開 型紙：資料⑨, ⑩】

